

平成十年度

卒業式祝辞

卒業生のみなさんへ

卒業生のみなさん、おめでとうございます。

卒業証書をそれぞれ手にして、頭の中では上福島小学校六年間の出来事が、つぎつぎと浮かんできているのではないのでしょうか。

今日は、私から卒業生のみなさんに、お礼と贈る言葉のふたつをお話しさせていただきます。

お礼の言葉

みなさんは、この一年間六年生全員が一丸となって、後輩達をリードしていただきました。

勉強、委員会活動、クラブ活動とは勿論のこと、PTA行事や子供会の活動においても、積極的に参加していただきました。

そのなかでも、子供会のソフトボールチームは優勝、キックベースボールチームは準優勝をいたしました。

過去に、優勝や準優勝したことはありましたが、男女揃ってということは初めてです。

人数が少なく、二年生のみなさんをもメンバーとして加えないと試合や練習もできないという困難な状況の中で、チームの先頭に立って、引っ張り、そして、チームをまとめた結果、勝ち取れたものだと思います。

贈る言葉

私が上福島小学校を卒業したのは、二十九年前の今日、三月十八日でした。

ちょうどそのとき、日本で初めて万国博覧会が、現在の万博記念公園で開催されていました。

「人類の進歩と調和」というテーマで世界のさまざまな国、会社が、人類の昔から現在、そして未来について、工夫し、それらを映像、音によって、私の体に投げかけてきました。

子供ながらも「大人になったら、こんな日本になるんだなあ。」と感じ、この博覧会は、私たちに大きな夢を与えてくれました。

あれから三十年近くがたち、現実にあるもの、宇宙旅行のように何年かのうちに実現しそうなものなど、いっぱいあります。

簡単にできたものもあれば、失敗を繰り返しながらできたものもあるでしょう。

それを実現させたものは、最新の技術であり、それを考え、作ったのは人なのです。

これから、みなさんは中学に進み、自分の夢、二十一世紀に向かって進めますが、時には、乗り越えなければ、前へ進むことができないこともあるでしょう。

その時には、「どうしたらできるのかあ、でもやってみよう」という前向きな気持ちで、進んでいただきたいと思います。

これは、私が二年間に渡り、PTAを引っ張ってこられた原点でもあります。しかし、「どうしたらできるのかあ、でもやってみよう」というのは、「ただ自分だけがよければ」というものでは決してありません。

みなさんの周りには、先生をはじめ、友達、ご家族、地域のみなさんと、たくさんの人々がいらっしゃいます。

その人々によって支えられていることも、けっして忘れないでください。

また、中学に進めば、さらに多くの人々との出会いがあります。

それらの人々と、勉強やクラブ活動などをいっしょになうて楽しく、中学生生活を元気にすごしていただきたいと思います。

なんとなく不安もあるでしょうが、それ以上に中学生生活は楽しいものだと、三年前にこの小学校卒業したみなさんが、中学校の卒業式で話しておられました。

保護者のみなさんへ

本日は、お子さまのご卒業おめでとうございます。

これから、お子さまは青春時代、親にとって今までとは違った、少し悩む時代へと進んでいかれます。

社会環境が大きく変わろうとしている現在、今まで以上に、お互いが支えあって、お子さまの夢・未来へと歩まれるようお祈りいたします。

また、上福島小学校在学中はPTA活動に、格別のご理解とご支援をいただきましてありがとうございました。

高いところからではありますが、厚く御礼申し上げます。

教職員のみなさんへ

校長先生をはじめ、教職員のみなさまがたには、この六年間ご指導いただき、また、いろいろとお世話になりました。

おかげさまで、子供たちは立派に成長し、この日を迎えることができました。
ほんとうにありがとうございました。

本日、上福島小学校を巣立ってゆきますが、これからも人生の先輩として、ご指導、ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に

それでは卒業生のみなさん、自分の夢、二十一世紀に向かって、元気に上福島小学校を巣立ってください。

まとまりのないものとなりましたが、卒業にあたっての、お祝いの言葉とさせていただきます。